

ムラヤママイマイ

Euhadra murayamai Habe, 1976

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
E	VU	CR+EN

日本固有種

左巻きの本種は、新潟県糸魚川市の明星山（タイプ産地）の石灰岩壁や石灰岩地の隙間の灌木林からのみ知られていて、明星山以外のどこからも知られていない。

The sinistral bradybaenidae, *Euhadra murayamai*, has only been reported in rushes growing on limestone cliffs or crevices at elevations of ca 600-1180 m in Mt. Myujo-zan, Itoigawa city, Niigata Prefecture, central Honshu, but not elsewhere in Japan.

基礎情報

■形態 貝殻は左巻き、大形（殻長11.0～15.0mm、殻径29.0～41.0mm）、多少薄質、螺塔が平たく平巻き状。螺層は5.5層。体層が大きく、その周縁は円い。通常は周縁部の第2帯と臍孔部の第4帯が明瞭であるが、第1帯と第3帯の色帯は不鮮明である。殻口外唇は広がって多少反曲する。臍孔は開く。左巻きで、平たい螺塔を持つ特異な形態は、左巻きの他種とは容易に識別できる。

■分布域 新潟県糸魚川市の明星山（標高1,187m）の石灰岩地のみに分布する。

■生息環境 本種は石灰岩地の岩壁や岩場を生息場所としていて、日中においては石灰岩地の岩陰や岩の割れ目などで仮眠して潜み、夜間になって適度な湿度が得られると、そこから這い出してツゲなどの樹皮や草本類を食うために活発に行動をする。

■生活史 生活史については一切不明である。

分布域および生息地の現状

新潟県糸魚川市の明星山（石灰岩地帯）の中腹（600m）から上部（1,180m）にかけて確認されていて、他の石灰岩地からは知られていない。石灰岩の岩壁のわずかな窪みに潜んでいるが、標高によって貝殻の大小に変異が見られる。すなわち、標高の低い石灰岩壁では小形（殻径29.0～32.0mm）であるのに対して、標高の高

い山頂部の個体は大形（殻径39.0～41.0mm）が多い。生息地が局所的で狭いのと、コレクターの採集によって今では著しく個体数の減少が顕著である。

存続を脅かす要因

コレクターなどの採集（41）。

保護対策の現状

特になし。

特記事項

日本産マイマイ属の中で、石灰岩地に特化（平巻き状）した固有種。

参考文献

- 東 正雄, 1978. ムラヤママイマイ (*Euhadra murayamai* Habe, 1976) の生態学的知見と生殖器. *Venus*, 37 : 121-123.
- Habe, T., 1976. New land and freshwater snails (Mollusca) from Japan. *Bull. Nat. Sci. Mus.*, (A), 2(4) : 225-228.
- 湊 宏, 2005. ムラヤママイマイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 — レッドデータブック — 6 陸・淡水産貝類, p. 288. 自然環境研究センター, 東京.
- 村山 均, 1989. *Euhadra murayamai* の発見始末記. *しづきつば*, (12) : 3-12. にいがた貝友会.
- 村山 均, 2001. ムラヤママイマイ. レッドデータブック にいがた — 新潟県の保護上重要な野生生物 —, p. 105. 新潟県環境企画課.

執筆者：湊 宏（日本貝類学会）